

# 園長だより

十四号二九年十一月  
竹鼻保育園  
園長 川出昭順

## 子ども達を主体的に

神奈川県座間市で衝撃的な事件が起きました。自殺願望であったという九人もの若い命が奪われました。世界中にこの事件は報道されたでしょう。どうしてこんな凶悪なことがで  
けるのか、報道  
だけではよく分  
からないのです  
が、現代という  
時代だからこそ  
起ったと言え  
るのでないか。  
殺された若者に  
ついて思うに、  
どうしてそんな  
男のところへ行  
ってしまったか  
ということでは  
自殺願望の若者  
を言葉巧みにネ  
ットで誘い出す。  
自分の悲しい寂しい思いを受け止めてくれる人であると  
安易に信じてしまったのでしよう。



ここはコスモパーク羽島です。「景色がちよっとちがうね・・・」もも3組のクラスだよりからです。

この事件から、いろいろなことが見えてきます。私たち誰でも特に若い頃は自殺したいという気持ちを持つことがあります。思うように事が運ばなくて窮地に陥る、生きていくことがいやになる、信じていた人から裏切られ、さらには意地悪をされる。そんなことに負けない心を、強い人間でありたいと誰もが願いますが、そうはいかないのも現実です。ブレーキをかけるものが何もなかったというか、スマホという現代の最新式の機器にすべてを託していく。本当に信ずることができないのは最も近いところにいる親であるはずですが、思春期はなかなか親に対する反発があるので、友人、先生・・・ところが、それらの人を頼りとしなかった。全く知らない人に自分のすべてを語っていく、スマホという機械であったからできるのでしょうか。自分を受け止めてくれる人がいるということがいかに重要なことか。見つからない場合は、機械を信じてしまう。仮想世界を本物であると錯覚する、何が本物か分からなくなってしまうという重大な問題です。

先日、羽島市の保育園こども園の園長十一名で、特徴のある保育をしているということで姫路の「子どもライブラリー」というこども園に行ってきました。十時半頃到着して園に入ると、子ども達は自由に遊んでいました。保育室の中で園児が行儀良く座って何かをしているというところは全くなく、ただ遊んでいました。ひとりつきりで積み木を飽くことなく触っている子、みんなと一緒に遊んでいる子、それぞれでした。はじめは私自身何が特徴のある園なのか分かりませんでした。

見学の後、園長先生を囲んで座談会になり、そこで自由に遊ばせることがいかに大切かを教えられました。自

由気ままな子どもになってしまい、小学校へ行ったら困るのでないかと聞きますと、子ども達は自然にその環境に慣れていくもので何の心配もないと。また、発達障害などのハンディーを持つている子に対してのお話に大変驚きました。保育士はこの子はハンディーを持つているから優しくしてあげなくてははいけないよ、困っているときには手を差し伸べなくてははいけないよ、と子ども達に諭します。すると、子ども達はこの子は自分と違う子なのだ、いいことすると先生が褒めてくれるからそうしようとなるというのです。ハンディーを持った子に対して子ども達は親切で思いがあり、素晴らしいと私たちも思うのです。ところが、本心からそう思っているかというところではない。先生が褒めてくれるからそうしているというのです。このような保育に警告を發しているのがこの園長先生です。われわれ大人の世界は、いいと思つて一生懸命やっていますが、本当に子どものためになっているかというところを、考えてしまいます。

私の息子が鹿児島島の別院で働いておりましたが、そこに幼稚園があり、こんなことを言つておりました。ここでは園児がけんかしていると止めない、と。徹底的にけんかをやらせるといふのです。これを聞きながら、いかなものかと思つておりましたが、今回の話を聞きながら、あまりにも保育士が先だつて止めてしまい、けんかにならないようにしている、これは安全を第一に考え、怪我をしないように大切にお子さんをお預かりしていることだけではないのです。しかし、これが保育の本来なのでしようか。勿論安全が第一です。しかし、保育士が園児の様子をしっかり見て、危険なときはすぐに間に入らなくてははいけません、少々のこととは見ているだけ。

そこに、大人が入らない子ども達だけで解決する力を育てる、という大切な面があるのです。子どもの成長は多義に渡りますが、一番大切なことは自らが判断できる子を育てることと、園長先生はおっしゃいました。

その通りだと思いますが、必ずしも全面的に私は賛成しません。子どもの主体性ということをおっしゃっていると思ひますが、これは西洋思想に基づいた考え方です。主体性とはとてもいい言葉ですが、どうしても自分中心の考え方です。これを推し進めれば進めるほど、自分中心の考え方が大きくなり、他の人のことを考えなくなり、気がつくとも孤独になつていける。今日の大問題です。隣が何しているのか全く関与しない。孤独死など典型です。グローバル化を言われる現代、西洋思想を中心に考えないと日本は存続し得ない。しかし、西洋の場合は、キリスト教に帰依している人がほとんどです。どんな孤独にも宗教が支えています。日本は、私は、どうでしょう。現代人が仏教を信じているとはとても思えません。以前は仏教を中心にして、家族・親族との信頼関係、村社会の付き合い、そんなことを大事にしてきた日本人です。そのことも考えながら、主体性ということも考えるべきだと思ひます。

これから何が起こるか分かりませんが、親はどんなことが起ころうとも、我が子を支え、決して見捨てない心を持つことです。自他共に生きていく心が仏さまの心であり、私たちの確かな歩あゆみになると思ひます。

（運動会の折に突然、「音楽発表会」中止を發表しました。皆様のご理解をいただき、ありがとうございました。今は各クラス独自に楽器に親しんでいます。）